

令和 6 年度学校評価シート（自己評価）

2025年6月1日

妙厳寺幼稚園

1、園の教育目標

仏教精神に基づいて、幼児の豊かな人間性の育成と生きる力を育むことを目標に次の4つの項目を掲げる。

1. 健康な心身を育てる
2. 社会性を養う
3. 創造性を培う
4. 言葉の発達を促す

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

1. 活動の目標やねらい、教材、学年間の系統性を整理し、見やすく実用的なカリキュラム（教育課程）の作成を進める。

- ・ 定例の学年会、リーダー会・カリキュラムの修正、補完
- ・ 日案、マニュアル、仕事分担の見直し
- ・ 漢字教育の内容や方法、教材についての見直し。

※成果の検証、扱う漢字、日本語教育全体の中での漢字、言語環境

2. 教職員の研修機会を確保し、新しい時代の教育課題について学ぶ。

- ・ 新任研修、職員のスキルアップ研修（ピアノ実技研修・漢字教育の自主教材開発等）
- ・ 「登園しぶり・不登園」・「日本語を母語としない園児」の支援
- ・ 「虐待・不適切保育防止の徹底」・「救急法や怪我の対応」
- ・ 「アンガー（怒りの感情）コントロール」・「ジェンダー（社会的に作られた性差）」
- ・ 「子どもアドボカシー（子どもの声を聴く）の取り組み」
- ・ 子供の本についての研修、環境整備の推進

3. 保護者の願いと個々の園児の発育課題に寄り添う支援体制の充実

- ・ 担任だけでなくチームで対応できる体制づくり・個人面談から教育相談へ
- ・ 関連機関との連携
- ・ 地域の教育力を活かす活動の展開（ボランティアの組織化）

4. 自然にふれあう機会を増やし、直接触れて感じる場面を大切にする実践を開発していく。

- ・ 園外保育、自然観察、動植物の飼育栽培等のカリキュラムへの反映
- ・ 生き物との触れ合いのための環境（ビオトープ）の整備・活用

5. 持続可能な園を目指し、園の魅力を高め、積極的な情報発信に努める。

- ・ わくわくクラブ、赤ちゃんの日、園庭開放、ミニ図書館、音楽コンサート等の拡充連携
- ・ SNS、YouTube、HP での情報発信
- ・ パンフレットの改訂。より魅力を伝える内容へ更新。
- ・ 若竹クラブの保育内容の見直し、拡充（正課カリキュラムとの連携）

6. 子供の安全を第一に、職員の研修や施設設備の点検、改善を進める。
・遊具・備品等の点検、充実 ・避難訓練の拡充（不審者対応訓練の導入・若竹クラブを含めた訓練の実施等）
7. 業務の可視化・IT等を活用した効率化を進める。
・GoogleChatでの情報共有の拡充・写真販売、卒園アルバム制作方法の見直し ・良い子ノート、指導要録等の一層の見直し ・園児情報の共有方法の見直し
8. 立場を越えて互いにリスペクト(敬意)をもって学び&高め合い協働の喜びを。(同僚性)
・働きやすく、安心して長く働ける職場をみんなで創っていく。 ・職員の親睦会やレクリエーション企画

3、評価項目の取り組み及び達成状況

評価項目	評価	達成状況
(1) 教育要領に沿った「10の姿」を念頭に置き、子どもの実態をもとに考えて教育課程を作成している。	A	職員研修の充実に努めた。教育計画が子どもの実態に沿った内容となるようGoogleChatや終礼等において情報共有をし、具体的な子どもの姿の記録と評価を行い、それらに基づいて教育課程に随時加筆、修正をしていった。
(2) 子どもの実態を的確にとらえ、具体的な手立てを講じる。	A	日々の記録によって子どもの実態を把握すると共に保護者面談・定期的な保護者アンケート等を実施し、それらで得た情報を教育計画に活かしていった。
(3) 家庭と連携して、規則正しい生活習慣の定着を図る	B	・園便りやウェブサイトでの写真・動画配信等を利用して、保護者に園での1日の流れの中で身に付けてほしい生活習慣の獲得を促しているが、まだ十分ではない部分がある。 (随時電話連絡、ウェブサイト写真・動画配信、良い子ノート他)
(4) 遊びや一斉活動を通して、考えたり、工夫したり、仲間と協力したりする姿勢を養っていく。	A	・仲間と協力する喜びを感じながら、遊びや活動を発展できるよう援助した。 (遊びの環境整備、野菜や草花の栽培、カブトムシの幼虫の飼育と観察日記、生き物コーナーでの情報発信 他)
(5) 考えたことを言葉で表現し、心豊かな人間関係を育む。	A	・豊かな語彙を身に付け、言葉を使ってものごとを認識し、感じたことを言葉で表現しながら、豊かな人間関係を築いていけるよう援助した。 (絵本の読み聞かせ・絵本の毎週貸出し・園だより等でのおすすめ絵本の紹介・児童書専門店での絵本研修の実施・新規絵本の購入・礼拝指導・各行事等)

4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評価	理 由
A	・教師一人一人が日々の保育の中でしっかりと記録を取り、共有し、常に課題を洗い出しながら教育内容の質的向上を目指すことができた。 ・保護者との情報共有や連携の重要性を認識し取り組みを進めてきた。保護者ボランティアが組織化され環境整備や安全確保の面で連携して成果を上げることができた。 ・園バスでの置き去り事故や不適切保育問題等を受け、保育方法、安全対策、安全マニュアルの見直しを進めた。施設設備面の整備等に今後更に努めていく。 ・今後も客観的に自らの教育、保育を振り返り、課題を見つけて取り組むことで、さらに充実した実践ができるようにしていきたい。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
安全対策	登降園管理システムの見直し。 不審者侵入に備えるための避難訓練を導入する。 施設設備・遊具等の年次計画に基づく適切な更新。
情報公開・個人情報管理	さくら連絡網、園 HP の保護者ページ、園便りやお知らせ、園公式 HP、保育参観日などを通して保護者や地域の方々への情報公開に努めているが、より一層知っていただくため、引き続き発信の仕方を工夫していきたい。
自己評価・研修	自己点検、自己評価の課題をクラスや学年ごとに相互に見直し、定期的に情報交流する。毎週必ず学年会を実施し、業務チャット上で報告・共有するようにする。 不審者対応、保護者対応、登園しぶり、発達支援、ジェンダー平等など様々な現代的な課題に常に適切に対応できるよう年間計画で研修日を設定し、職員の研修環境をさらに整えていく。
指導計画の編成	指導要領を読み込み、子どもの実態に即した指導計画を作成できるよう、既存の指導計画に加筆、修正をし、よりふさわしい編成としていきたい。 若竹クラブの指導計画も見直していく。
保護者や地域との連携	より良い教育、保育ができるよう保護者や地域との連携のチャンネルを増やしていく。(ボランティアの組織化・御霊祭りや運動会、発表会等の行事へ招待・保育公開・評価アンケートの実施・地域の行事へ参加等) 幼小の連携を密にして、就学を見据えた保育環境を整えていく。